



どくしょげっかん
読書月間・平和旬間

へいわじゅんかん
平和旬間



6月23日は慰霊の日です。

図書館では毎年この時期に、戦争・平和に関する資料や図書てんしの展示をおこなっています。

本や資料から、これまでの沖縄の歴史れきしに関心かんしんを深め、いっしょに考えてみる機会きかいにしてください。

「しろはた しょうじょ」
『白旗の少女』

著者・比嘉富子さんの兄・直裕さんは、豊見城のお隣、糸満市米須の海岸で流れ弾をうけ、命をうばわれました。

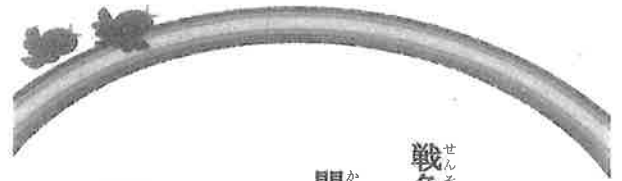
「富子、あなたはまだ小さい子どもだから、いくらでも生きるのぞみがあると思うの。もし、私と初子が生き残れなかったときは、富子、あなたが直裕兄さんのい骨をひろうのよ。そして、ちゃんと私たちの家のお墓に入れかえてあげるのよ。今は戦争中なので、ここに埋めただけだからね。たのおわね、富子。」
(86頁より)

今から75年前、みなさんが住むこの沖縄の地で、みなさんと同世代の富子さん(当時6歳)が姉のヨシ子さん(当時17歳)、初子さん(当時13歳)から言われた言葉です。

あなたはこの言葉を読んで、どう感じるでしょうか？



沖縄戦は日本で唯一、地上戦がおこなわれ、多くの一般住民がまき込まれて犠牲となりました。その数は十万人以上にものぼるといわれています。ぜひ手にとってよんでほしい一冊です。



戦争と平和に
関する本を読もう
「文章や写真を通して
戦争と平和について
考えてみよう」
六月の目標



コロナ感染予防



本を借りるとき、返すときのソーシャルディスタンスの確保、館内札にはパーテーションをせっちするなど、図書館でも、さまざまな感染予防対策をおこなっています。



図書館をしようするときは
手あらいもわすれずに！